



Relay for you

—臓器移植はあなたの意思をつなぎます—

18号

## 新潟県臓器移植推進財団だより

令和3年12月発行 公益財団法人新潟県臓器移植推進財団  
ホームページ <http://www.niigata-ot.net>

新潟市中央区新光町4番地1（新潟県福祉保健部健康づくり支援課内） TEL：025-283-4880

### 「ヤン&アッキーのど〜なの？臓器移植シーズンR3」を放送しました！



より多くの人々に移植医療についての理解を深めてもらい、臓器提供に関する意思表示をしていただくため、国では毎年10月を臓器移植普及推進月間と位置付けております。

その一環として、「臓器移植フォーラム」とFM-NIIGATA「ヤン&アッキーのど〜なの？臓器移植」の公開録音をこれまで行ってきましたが、今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、フォーラムの開催は見送ることとしました。

移植医療について関心を持っていただくため、「ヤン&アッキーのど〜なの？臓器移植」は、FM-NIIGATAのスタジオで録音し11月6日（日）に放送しました。

#### 番組内容

令和になって3回目となるFM-NIIGATA「ヤン&アッキーのど〜なの臓器移植シーズンR3」。シリーズとしては13年目を迎える長寿番組となりました。今回は腎移植が専門で新潟大学医歯学総合病院泌尿器科の田崎正行先生をゲストにお迎えし、臓器移植に関して、「楽しく・分かりやすく」をモットーにトークを展開しました。

#### 【主なトーク内容】

移植医療の現状（臓器提供の流れ、腎移植医の仕事）、コロナ禍における移植医療への影響、リスナーからのご質問への回答

※なお、番組内での田崎医師の発言は次ページにまとめてあります。



ラジオ番組は財団HPに掲載されていますので、是非、聞いてください！

（左から）秋山コーディネーター、田崎医師、FM-NIIGATAパーソナリティ酒井春奈さん、ヤンさん ※ 感染予防のためスタジオ内でもアクリル板を設置しております。

収録後、出演者で記念撮影！

#### 番組に寄せられたご意見・ご質問

■ 番組に寄せられたご意見・ご質問（一部）に当財団の秋山臓器移植コーディネーターがお答えします。

Q：健康保険証・運転免許証・マイナンバーカードなどの意思表示欄に記入した意思を変更するにはどうしたらよいですか？

A：最終の意思は意思表示欄に記載されている記入年月日が新しいものを優先する規則です。意思の変更記入は、健康保険証

などの記載欄が小さいため意思表示カードなどへの記載をお勧めします。

Q：意思表示のやり方が分からない。娘は13歳ですが、臓器提供の意思を示したがっているのです。

A：「したくない」の意思は年齢を問わず優先されます。また「したい」意思記載の有効年齢は15歳以上ですが、ご本人の意思は年齢を問わず記入していてもかまいません。



## 腎移植医から ラジオ番組の一節より

## コロナ禍と臓器移植

新潟大学医歯学総合病院  
泌尿器科 田崎 正行 先生

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2019年12月初旬に、中国の武漢市で第1例目の感染者が報告されてから、わずか数カ月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となりました。わが国においては、2020年1月15日に最初の感染者が確認され、4度の緊急事態宣言を経て2021年11月現在、感染者数は減少傾向にあります。この1年10か月の間、われわれの生活は一変しました。

末期臓器不全の根治的治療である臓器移植は、臓器提供があって成り立つ医療です。臓器を提供したいというドナーとその御家族の尊い意思により、これまで多くの臓器不全の患者様が救われております。しかし、コロナ禍となり救急の現場はコロナ患者の対応に追われ、臓器提供数もかなり減少しました。また、コロナ禍により通常診療の制限が設けられ、予定された移植を延期しなければならない状況もありました。通常、臓器提供を希望されるドナーがいる場合、われわれは県外であっても臓器の評価や摘出に向かいますが、コロナ禍により県外への移動は制限され、臓器摘出ならびに臓器移植をあきらめざるを得ない場合もありました。

われわれは、臓器提供を希望されるドナーならびにその御家族の尊い意思に応える義務があり、臓器不全患者を救う使命があります。それらを不可能にするほどコロナウイルスは恐ろしい存在です。しかし、このようなコロナ禍においても各医療学会をはじめ、それぞれの医療施設は移植医療を止めることのないように体制を整備し、少しずつではありますが臓器提供、臓器移植がコロナ禍以前のように行えるような兆しが見えております。

## 令和3年度 臓器移植対策推進功労者に本県から2名選定！

移植医療対策の推進に顕著な功績のあった方に贈呈される厚生労働大臣感謝状の対象として、本県から山崎肇先生（長岡赤十字病院副院長）と当財団理事の山口征吾先生（新潟県地域医療推進機構魚沼基幹病院地域救命救急センター長）が選定されました。両先生、おめでとうございます！

山崎肇先生  
(写真左側)長岡赤十字病院 副院長  
新潟県院内コーディネーター 山崎 肇 先生

この度の感謝状を頂戴しましたこと、誠に光栄に存じております。私自身は2001年から長岡赤十字病院の院内コーディネーターとして活動してまいりました。当院の提供体制は、長年にわたって積み上げられ、改修され、再構築されてきたものであり、当然ながらそこには多くの方々の努力と汗が詰まっています。今回の表彰はそれを代表する形で評価いただいたものと受け止めております。ありがとうございました。この場を借りまして関係諸氏に改めて感謝申し上げますとともに、当初からずっとご指導いただいている新潟県臓器移植推進財団の秋山政人氏に謝意を表したいと存じます。

山口征吾先生  
(写真右側)新潟県地域医療推進機構魚沼基幹病院  
地域救命救急センター長、新潟県臓器移植推進財団 理事 山口 征吾 先生

この度、厚生労働大臣より臓器移植について、感謝状を頂きました。当院はまだ開院して6年半という病院で、医療圏も17万人という小規模な地域救命救急センター併設の地域基幹病院です。現在までに、脳死下臓器提供9例、心停止下臓器提供1例という症例の多さから、表彰していただいたと思います。これは私個人ではなく、病院職員やコーディネーターの皆さま、そして何よりも臓器提供をしていただいたご本人、ご遺族のお陰です。この場を借りて、お礼を申し上げます。

## 特別寄稿「臓器移植との関わり」



新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院地域救命救急センター長  
 新潟県臓器移植推進財団 理事 山口 征吾 先生

私が、はじめて臓器提供の症例に出会ったのは、10数年前の2次病院でした。若い男性が縊頸（いけい）をしているのが発見されました。自己心拍再開はしたものの、意識が戻る可能性はありません。人工呼吸器のついた息子の脇で母親はずっと彼を見つめていました。この世の悲しみをすべて背負ってしまったかのようで、かける声すらみつかりません。数日後、彼の自発呼吸が止まり、瞳孔が散大しました。

母親に、臓器提供の道が残っているかもしれないと告げると、こちらが予想をしないほどの反応で、大賛成してくれました。母は気持ちを切り替えることができました。表情も明るくなり、アルバムを病室に持ち込んで、息子にあんなことやこんなことがあったねと話しかけていました。臓器摘出のあと、母は晴れ晴れとした表情で、息子とともに帰宅しました。息子の臓器が人助けになったこと、臓器がどこかで生きているということが母の心の支えになったのです。母の気持ちの変化は劇的で、もしあの時臓器提供がなされていなかったら、母はおそらく一生大きな心の傷を癒すことはできなかったと思います。

病院としても、私個人としてもわからないことだらけでしたが、コーディネーターのおかげで、経過はスムーズでした。その後、彼に関わった看護師の中で2人がコーディネーターになってみたいと言い出したのですが、それだけインパクトが大きかったという証です。

たくさん臓器提供を経験すると、いろいろなことを感じます。たとえば脳波についてですが、果たして高感度脳波は必要なのか、ノイズと見分けがつかないレベルのものが本当に必要なのか。また全国各地での臓器提供施設での医師の取り組みはどのようなのかなどです。日本の遅れた脳死下臓器提供を何とか前進させることができれば、うれしいです。

## 役員名簿(令和3年11月末現在)

### 公益財団法人新潟県臓器移植推進財団 役員名簿

令和3年11月30日現在

<p>■理事長 成田 一衛 新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎・膠原病内科学(第二内科) 教授</p> <p>■副理事長 福地 健郎 新潟大学大学院医歯学総合研究科 視覚病態学分野 教授</p> <p>■常務理事 齋藤 和英 新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野 准教授</p> <p>■理事 木下 義昌 新潟大学大学院医歯学総合研究科 小児外科学分野 教授 塚田 芳久 新潟県医師会 副会長 吉澤 豊久 新潟県眼科医会 会長 青池 郁夫 新潟県透析医会 会長 鈴木 栄一 魚沼基幹病院 病院長 山口 征吾 魚沼基幹病院 地域救命救急センター長 宮本 豊博 日本赤十字社新潟県支部 事務局長 佐藤 義尚 新潟県ライオンズ・アイバンク協議会 副理事長 大竹 勝巳 新潟県腎臓病患者友の会 会長</p> <p>■監事 石崎 修 元新潟県三条地域振興局健康福祉環境部参事(医薬予防課長)</p>	<p>■評議員 牛木 辰男 新潟大学 学長 雷田 善彦 新潟県病院協会 会長 松田 英伸 新潟大学医歯学総合病院 眼科 准教授 高井 和江 新潟県医師会 理事 川嶋 禎之 長岡赤十字病院 院長 齋藤 有子(公社)新潟県看護協会 会長 村越 勝蔵 新潟県ライオンズ・アイバンク協議会 副理事長 田中 納次 新潟県厚生農業協同組合連合会 代表理事専務 森澤 真理 新潟日報社 論説編集委員 室長 田中 利夫 日本文理高等学校 副校長 園田 裕久 新潟県長岡保健所長 田中 昌直 新潟県市長会 事務局長 渋谷 聡 新潟県町村会 事務局長 石田 芳英(株)石鏡工業 代表取締役(新潟移植者の会)</p> <p>■顧問 大石 正夫 荒川 正昭 白根健生病院 眼科医部長 高橋 公太 新潟県福祉保健部参事</p>
---	--

## ～財団の活動・運営にご協力ください～

当財団では、一人でも多くの患者さんが移植を受けられるよう、県、市町村、患者団体等と連携し、臓器移植に関する知識の普及啓発等に取り組んでまいりました。

財団の活動は基本財産の運用益と皆様からの善意の賛助会費や寄付金で行っております。財団の安定的な活動・運営のため、引き続き、皆様の御協力をお願いいたします。

### 賛助会加入及び寄付の方法

★賛助会費(年会費)

法人1口	10,000円
個人1口	1,000円

※当法人に賛助会費や寄付金を納められた方は税額控除されます。領収書が必要な方はご連絡ください。

郵便振替  
の場合

口座番号 00500-4-76919  
 公益財団法人新潟県臓器移植推進財団

銀行振込  
の場合

第四北越銀行 新潟県庁支店  
 普通口座 237932  
 公益財団法人新潟県臓器移植推進財団



